表 1　○　上段は音楽の要素を中心に，また下段は児童生徒の心身の発達及び学習上配慮すべき要素を表にした。
○　表の見方→それぞれの項目について左から右へと発展性を加味した。
○　この表は各要素の発展の流れを重視したものであり，学習のすべてを網羅したものではない。

項目	学校	小学校						中学校			高等学校			一般	備考
	学年	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3		
	週当たりの時間	2	2	2	2	2	2	2	2	①	2	②	※		※選択にかなりの幅がある
リズム	拍子	基本的な拍子			日本語の語感との関連			無拍節など定形的な拍子以外とも関連させながら日本における間なども感得させたい							小学校低学年では，身体反応・身体表現を効果的に活用し，リズムを体得させる 小学校中・高学年では，楽譜と結びついた理解へと発展 中学校以降では，様々なリズムとテンポなど他の要素との関係の把握へと発展
	リズムフレーズ	身体表現と密接に関連				楽譜との関連を明確にさせる					気候風土による違いなども把握				
	ことばのリズム	明確な発音		アクセントなど		☆発語としての理解と訓練		ことばのフレーズと関連し表現に深みを持たせる，外国語にも応用する							
身体表現即興表現身体反応		身体表現，即興表現，身体反応			器楽奏法，指揮法への発展を含む			バレエ，舞踊，演劇，指揮法，器楽奏法へと直接関連しながら発展							筋肉運動と発音，発語との関連，身体を用いた多彩な芸術表現へと発展
メロディー	ことばのフレーズ	ことばの機能と音楽			☆ことばを発語の段階へ発展			声楽の表現の技法を確立するとともに演劇の台詞や器楽のフレーズ作りへと発展							小学校低学年では，率直な表現やイメージの広がりなど直接反応を引き出すために，身体反応・身体表現を効果的に導入する 学年が進むにつれて日本語の持つ語感を大切にする習慣を身につけさせたい
	タンギング	鍵盤ハーモニカ・ハーモニカ			リコーダー・各種の管楽器			多様な発音（吹奏楽器）や運指法・シンセサイザーの音設計などに発展							
	音階	移動ドによる既習曲の階名唱				移動ドによる階名唱					固定ドを含め音程感の訓練				
発声		明るく頭声で		頭声と地声とのバランス			変声期への配慮	☆発語を含めた多様な音色への工夫へと発展							☆発語→表現の意味を含んだことば
調		譜読みはハ長調（実音では他の調も含む）イ短調				へ長調二短調		一般に使用頻度の多い調			コードの使用や無調を含め幅広い調				楽器の自作や具体音楽の鑑賞なども加え，音の多様さも体得させる
ハーモニー	調和	一斉授業内でのバランス感覚				小グループでのバランス感覚				合唱やオーケストラでの自分の役割					共同・協調して作りだす音楽のすばらしさを体得する
	和音	聴唱法などでの響き			楽器や合唱での三和音			音色との関連・転回			コードの使用や転回和音と音色				和音の中からある一定の音を聴き取り表現する

身体の発育	身体を動かすのが好き，直感で行動する	身体が発達し多彩な表現が可能となる	筋肉の記憶保持能力が発達，男子の変声期	身体の発達の変化が大きい	筋肉面での理想的訓練が可能となる	訓練のための時間が作れなくなる
し好にかかわる面	遊びの要素，意味が理解できなくても楽しい歌	遊びの要素，興味の視野が広がる	個人のし好が育ち始める，自我意識が強くなる	自分のし好に強くこだわるようになる，精神的に不安定	自分のし好に幅ができる，精神的な分野への驚きや傾斜	大学や職場でのサークル活動への参加
地域での表現活動	わらべうた，祭りのお囃，学校行事	祭礼の子役，盆踊り，鼓笛隊，発表会	地区での発表会各種コンクール歌舞伎，獅子舞，浄瑠璃など	地域的なものよりマスコミの影響を受けやすい部活動の発表	必修クラブ，自主的アンサンブル	公民館活動各種サークル活動や地区の催し
グループ活動	相手の意見を尊重させる	グループ作りに慣れさせる	グループ活動で人間関係を錬磨	小アンサンブルの活用	大アンサンブルの活用	サークル活動
他教科との関連	リズム運動，ことばのリズム	リズム運動や身体表現など体育科との関連	詩の内容把握，音楽劇，演劇など文学との関連	文化史の世界的な視野の拡大，英語の歌	気候風土と音楽，言語活動と音楽，原語と関連	生活全般とのかかわり